

ホッピーだより

平成19年 2月 1日 (2007/ 2/ 1)

No. 267

むかわ町立穂別博物館

054-0211

北海道勇払郡むかわ町穂別80-6

0145-45-3141 (Tel & Fax)



クビナガリュウのホッピー

ホッピーのひみつ 「ホッピーの首は、なぜ長い？」

全長8mのクビナガリュウ「ホッピー」の首の長さは約4.6m。胴体の2倍もあります。なぜ、このように長いのでしょうか？

1. 「首長竜」だから 2. かゆいところにとどくように 3. エサがとりやすいように

同じように長い首があるハクチョウは、首がとてもよく曲がり、くちばしが体のどこにでもとどくようになっていきます。前足が翼になり、後足も水かきなどがあるため、羽根の手入れなどは全てくちばしで行うのです。

さて、ホッピーの首は、どれだけ曲がったのでしょうか？ 以前は、何回も巻けるくらい曲がったと考えられていましたが、最近の研究では、あまり曲がらなかったようです。

クビナガリュウは、魚やイカをつかまえて食べます。しかし、追いかけるためにすばやく泳ぐことはとくいではなかったようです。小さな頭を大きな体から遠くはなすことによって目立たなくなり、エサにこっそりと近づくことに役立っていたとも考えられています。答えは3です。(でも、他の理由もあるかも知れません)

(学芸員 さくらい)

ホッピー化石アドベンチャー展 2006 公開中

2月18日(日)まで 穂別博物館 特別展示室にて



化石採集

化石クリーニング

化石レプリカづくり

展示室の見学

化石の名前しらべ

展示の準備

化石やプリントを展示

閉会式

一年間かけて、化石に関わる色々な活動をしました。

そのまとめとして、取り組んだ内容を、会員が自分たちで展示しました。

ぜひ、見に来て下さい。

ジオラマをもう一個作ってみたい！



冬休み中の、1月7日と8日に博物館の特別展示室で「ミニジオラマ」づくりを実施、最終的に30名の方々が参加して、思い思いに「クビナガリュウ等がいた頃」の大むかしの海のように想像しながら、自分のジオラマ（情景模型）を作りました。



プリントされた「アンモナイト」や「サメ」などから自分の好きなものを選んで色を塗り、これを切りぬいて配置し、仕上げました。

子どもたちから「こういうのが作りたかった」「学校に持って行く」といった感想がありましたが、付き添っていた大人たちにも「私も面白かった」「下の子にも作らせたかったのでもう一つ欲しい」など、好評でした。

果実と種子の話3 「くっつき種子？」

花が終わった後の野山を歩くと、衣服や軍手などにいろいろな種子がくっついていることがあります。落とそうとしてもなかなかとれにくく困りものですが、植物にとっては自分たちの生育場所を広げる大切な方法の一つなのです。



軍手についた果実

こうした種子や果実の多くは、写真のようにとげを持ち、動物の体にくっついて、他の場所へと運ばれていくのです。

むかわの化石や生き物



ヘビ(卵)

山の中で見つけた、ヘビの卵です。3～4cmの大きさで、9個ありました。白っぽい色のカラはやわらかく、ぶよぶよしていました。実は、かたいカラの卵をうむのは、鳥と恐竜だけです。うみつけれられた石のすき間から、ころがり落ちてしまったようです。

2007年2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

2月のこよみ

2月の休み：
5、19、26（月曜日）
13、14（祝日の振替）

■：休館日
[]：館内整理日（休館）
○：町民無料入館日

この冬は、雪が少ないようです。雪かきなどの苦勞が少ないのは助かりますが、地球全体があたたかくなっているためだとすると、喜んでばかりもいられません。取り返しがつかなくなる前に、自分たちにまず何ができるか考えませんか？（さ）